

# 蔵くらら楽

kurara



Kuromatsu Senjyo

株式会社 仙醸

第35号 2020年7月1日発行  
発行 株式会社 仙醸 蔵楽編集委員会

## 新型コロナウイルスに対して当社ができること

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が広がっています。今回はそんな時代において、酒蔵が果たすべき役割について考えました。

### 新型コロナウイルスの影響

当社も新型コロナウイルスの影響を大きく受けています。まず、多くのイベントが中止となりました。その中には、仙醸新酒まつりのほか、長野の酒メッセ（東京・大坂）などがあります。また宴会等の自粛、飲食店様の休業により業務用の酒の需要も大きく減少しました。また地元、高遠城址公園の桜まつり中止に伴い、観光需要も4月は実質ゼロとなりました。

### アルカス77を発売

売上減少が懸念される中、何か出来ないかと模索してい



た時期に、四国の酒造メーカーが、消毒用に使用できる高濃度エタノールを発売しました。消毒用としての使用も厚生労働省が認めたことから、当社でもスピリッツ免許を生かして、消毒用にも使えるアルコール度77%のスピリッツ「アルカス77」を発売しました。アルカスは私の息子もお世話になっている地元少年サッカーチームの名前で、ARUKASを反対にすると、SAKURAという意味もあります。現在消毒用エタノールの需要は落ち着いていますが、酒税免税対応の商品などもご用意し、感染第二波などには備えていきたいと思っています。

### 仙醸の過去の医薬品販売

当社は創業以来、清酒、甘酒など「飲んで楽しむ」ための飲用製品を製造してきました。今回、手指の消毒用商品を発売したのは、その意味では新しい一歩ではありませんが、歴史を紐解くと、薬の販売は初めてではありません。

創業者、黒河内松治郎は酒蔵の創業まもない時期、「小児健脾丸」「開達酸」という胃腸薬の卸売り販売をしていた記録が残されています。「官

許（写真）とあるので、国の許可を得ていたようです。

松治郎は、地域社会の発展や、健康増進に寄与できれば、酒造り以外の事業にも果敢に取り組んでいました。最終的には酒造業に落ち着いたわけですが、そんな幕末の「創業の精神」に背中を押されて今回、アルカス77発売につながりました。当社の理念は「米発酵文化を未来へ」ですが、コロナ後の世界、地域において酒蔵がどんな役割を果たしていくべきか、考え続けていきたいと思っています。



# 仙醸 新入社員

製品部

有賀 雅浩

aruga masahiro

上伊那農業高校から東京農業大学（醸造学部）、茅野市の製麺会社をへて縁あって仙醸に去年の10月に入社をさせて頂きました。大学時代にお酒の勉強をするなかで、将来醸造関係の仕事に就きたいと思っていたため、地元上伊那で酒造りをしている企業ということで、とてもご縁を感じています。

現在は製品部で瓶詰、梱包作業などを行っています。まだまだ半人前ですので、早く一人前になれるように頑張っていきたいと思っています。



## 酒造雑話

「〓全国新酒鑑評会を終えて〓」

醸造部主任（杜氏）柳平勝人

蔵人の技術を試す場として開催される全国新酒鑑評会。

それは市販酒とは一線を画すものであり、鑑評会で金賞を獲った酒が最高に美味しいかという決断はそうではない。たとえて言うなら、普通車とF1の違いともいえるべきか。毎日の晩酌には本醸造や純米酒の方が飲みごたえがあつてよいと思つている。出品用の大吟醸はそれこそ丁寧に造る。雑味のない綺麗な酒を目指すことに集中する。個々の蔵人がどれだけ細かな仕事ができるか、その積み重ねによつて芳醇な吟醸香と米由来と疑うほどの濃厚な甘味が生まれるのである。

今年は令和最初の記念すべき鑑評会であつた。昨年は成績も揮わず大変悔しい思いをしたので今年こそはと意気込んでいた。造りをしている最中も出品酒が出来上がった時も今できることは全てやつたと思えるほどに充実していた。

しかし、鑑評会も新型コロナウイルスの影響で審査員の招集が出来ず、研究所職員のみでの審査になる為予審までの審査とし、決審は行わないとの知らせがあつた。という事は、入賞酒は発表されるがその中から金賞は選ばれないという事だ。5月22日、結果が発表された。仙醸は見事入賞。長野県は33蔵が選出され、全国では福島県に並び入賞数2位を果した。喜ばしい反面、今年は金賞を狙えると思つていただけに非常に残念である。

だが、これで蔵人の技術も証明出来て、杜氏として一年目の責務は果たせたのではないかと思つている。そして、出品酒は山田錦が大半を占める中、地元上伊那産の酒米ひとごちで入賞できたことはうれしい限りである。これから地元産にこだわつて酒を醸していきたい。

この一度の成果に満足することなく、さらに技術を磨き、そして来年こそは万全の状態での鑑評会が開催されることを願っている。

## 編集後記

編集委員長  
中島賢一朗

大変な世の中になりました。

中国武漢に端を発したとされる新型コロナウイルスは人類の生命を脅かすのみならず、世界経済に大きな影を落としています。この蔵業を準備している間にも目まぐるしく情勢は変化しました。緊急事態宣言は解除されましたが、東京を中心に第2波の兆しが早くも見え始めています。

新型コロナウイルスが封じ込められたとしても、完全には元の生活に戻ることができない「ニューノーマル」の世界が訪れると言われていてます。廃れてしまう文化・風習もあることでしょう。私たち清酒業界も例にもれず業績を大きく落とし、生き残りへの道を模索する毎日です。

神事に、祝いの席に、日々の癒しにと求められたはずの酒という存在が「不要不急」と言われない世の中であつてほしいと願わずにはいられません。

商品に関するお問い合わせ・ご注文は



株式会社 仙醸

TEL 0265-94-2250 FAX 0265-94-2025

〒396-0217 長野県伊那市高遠町上山田2432

E-mail kuromatu@senjyo.co.jp

HPアドレス <https://www.senjyo.co.jp/>

facebook <https://www.facebook.com/kuromatsu.senjyo>

YAHOO! <https://store.shopping.yahoo.co.jp/sake/>



アクセス

お車で…伊那インターより約15km 30分  
電車で…伊那市駅より約10km 20分